シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程　映像メディア科１年

科 目 名	キャリアガイダンス(688)				教 科 区 分	一般教育科目
					必修 / 選択	必　修
担当教員	森田　紗季				実　務　経　験　内　容	
					［森田］音響・照明業界の経験を活かし、業界に必要な礼儀やマナーなど必要不可欠な内容の知識を中心に講義する。	
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
	3	－	－	－		

科　目　の　ね　ら　い　・　到　達　目　標
仕事をしていく上で必要となるビジネススキル向上を目的とするとともに、就職活動がスムーズに進めることができるよう、様々な準備を行う。社会人として求められる最低限のコミュニケーション能力と、社会人として持っているべき常識および、ふさわしい行動をとれる能力を身につけていく。

授業形態	演習	教　室	355 教室	補助教員	なし

就職活動がスムーズに進めることができるよう、様々な準備を行う。社会人として求められる最低限のコミュニケーション能力と、社会人として持っているべき常識およびふさわしい行動をとれる能力を身につけていく。

教 科 書 教　　材	仕事力を身に付ける２０のステップ

授　業　計　画　・　内　容
【前期】 1～ 3 回　就活とコミュニケーションのつながりを理解する 4～ 6 回　意見をつくる力 7～ 9 回　聞く力・話す力 10～12 回　自己理解 13～16 回　仕事理解 【後期】 1～ 3 回　自己 PR 作成 4～ 6 回　トークセッション 7～ 9 回　就活成功３ヶ条 10～12 回　選考基礎（ビジネスマナー、敬語等）、書類選考（ガクチカ作成体験） 13～15 回　面接（個人・グループディスカッション） 16 回　　まとめ ＜授業外学修時間＞ 授業内容の理解を深めるため、毎回の授業後に配布資料やノート等を用いて復習を行う。 また、次回授業の範囲について教科書や参考資料を事前に読み、予習しておく。 必要に応じて課題やレポートに取り組み、関連する文献や資料を調査する。 担当教員は、授業外学修時間を確実に行わせるため、振り返りテスト、レポートなどを課すようする。

評価コード	11
評 価 方 法	・100 点を満点とし、筆記試験を 60 点、平常点（出席および受講の状況）を 40 点の配点とする。 ・通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。 ・成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程　映像メディア科１年

科 目 名	映像論(567)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必　修
担当教員	冨田　正樹				実　務　経　験　内　容	
					［冨田］映像業界で制作技術を経験してきた。培った映像関連の知識・技術を活かし講義する。	
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
	3	－	－	－		

科　目　の　ね　ら　い　・　到　達　目　標
映像における制作・技術の基礎的な知識を学ぶ。 映像という身近な物を「商業」として成立させるために必要な知識と技術を例題を用いながら解説していく。 今まで興味のなかったコンテンツにも興味を向けれるようになり、 かつ既存コンテンツの制作技術の方法を理解させていく。

授業形態	講義	教　室	355 教室	補助教員	なし
授業は講義形式で行う。板書を行い、学生に考えさせながら進めていく。必要な時に映像をプロジェクターを使用しスクリーンに映して講義することもある。					

教 科 書 教　　材	必要に応じてプリント配布

授　業　計　画　・　内　容
【前期】 1～ 2 回　映像/基礎知識① 3～ 4 回　映像/基礎知識② 5～ 6 回　映像制作の仕事とスタッフの役割 7～ 8 回　カメラ技術１（カメラ機能） 9～10 回　カメラ技術２（撮影方法） 11～12 回　カメラ技術３（特殊撮影） 13～14 回　カメラワークの基礎 15～16 回　前期まとめ 【後期】 1～ 2 回　映像/基礎知識③ 3～ 4 回　録音・音声 5～ 6 回　映像・照明 7～ 8 回　ENG の仕組み 9～10 回　放送技術（無線伝送等） 11～12 回　映像とは（コンテンツの将来） 13～14 回　最新映像技術について 15～16 回　まとめ ＜授業外学修時間＞ 授業内容の理解を深めるため、毎回の授業後に配布資料やノート等を用いて復習を行う。 また、次回授業の範囲について教科書や参考資料を事前に読み、予習しておく。 必要に応じて課題やレポートに取り組み、関連する文献や資料を調査する。 担当教員は、授業外学修時間を確実に行わせるため、振り返りテスト、レポートなどを課すようする。

評価コード	3
評 価 方 法	・定期試験（100 点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点（出席および受講の状況）を 20 点の配点とする。成績の評定は、S（90～100 点）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、F（60 点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がＦの場合、追試験を受験する。 ・追試験（100 点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の６に 60 点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。 ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（１点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程　映像メディア科１年

科 目 名	編集論(915)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必　修
担当教員	梅村　泰成				実　務　経　験　内　容	
					［梅村］映像業界で制作技術を経験してきた。制作技術で培った知識・技術を活かし講義する。	
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
	3	－	－	－		

科　目　の　ね　ら　い　・　到　達　目　標
映像編集に関わる基礎知識を学ぶ。実際の映画や番組を見て、どんな狙いでカットが編集されているかを分析し、考察する。また古典映画も題材にし、編集の歴史の原点をおさえていく。ポストプロダクションの役割も学び、音・色・テロップなどの知識も学んでいく。

授業形態	講義	教　室	355 教室	補助教員	なし
授業は講義形式で行う。板書を行い、学生に考えさせながら進めていく。必要な時に映像をプロジェクターを使用しスクリーンに映して講義することもある。					

教 科 書 教　　材	ポストプロダクション技術マニュアル【第９版】一般社団法人日本ポストプロダクション協会 （授業内で適宜使用）

授　業　計　画　・　内　容
【前期】 1～ 2 回　ポストプロダクションの役割 3～ 4 回　映像編集の歴史 5～ 6 回　テレビ放送の歴史 7～ 8 回　走査線について 9～10 回　映像信号について 11～12 回　タイムコード 13～14 回　VTR について 15～16 回　映画鑑賞 【後期】 1～ 2 回　前期のまとめ 3～ 4 回　モンタージュ理論について 5～ 6 回　オフライン・オンライン編集について 7～ 8 回　リニア・ノンリニア編集について 9～10 回　様々なカット割りについて 11～12 回　イマジナリーラインについて 13～14 回　音・色調整(MA・カラーコレクション)について 15～16 回　まとめ ＜授業外学修時間＞ 授業内容の理解を深めるため、毎回の授業後に配布資料やノート等を用いて復習を行う。 また、次回授業の範囲について教科書や参考資料を事前に読み、予習しておく。 必要に応じて課題やレポートに取り組み、関連する文献や資料を調査する。 担当教員は、授業外学修時間を確実に行わせるため、振り返りテスト、レポートなどを課すようする。

評価コード	3
評 価 方 法	・定期試験（100 点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点（出席および受講の状況）を 20 点の配点とする。成績の評定は、S（90～100 点）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、F（60 点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がＦの場合、追試験を受験する。 ・追試験（100 点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の６に 60 点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。 ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（１点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程　映像メディア科１年

科 目 名	演出論(910)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必　修
担当教員	川崎　慎也				実　務　経　験　内　容	
					[川崎]長年シナリオライターとして携わってきた経験を活かし、様々なメディアの演出法を教える。	
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
	3	－	－	－		

科　目　の　ね　ら　い　・　到　達　目　標
基本的には映像における演出を学ぶが、それは入り口にすぎず、様々なメディア・事象からの演出技法を学ぶ。演出とは極めて抽象的なものであり、具体的な方法の提示が難しい。その特性も深め、小さな演出の積み重ねにより、作品を作り上げていく方法を教えていきたい。

授業形態	講義	教　室	355 教室	補助教員	なし

授業は講義形式で行う。場合に応じて PC をスクリーンに映し、演出例を提示していく。
また、グループワークなど能動的に授業に参加できる仕組みを展開していく。

教 科 書 教　　材	なし

授　業　計　画　・　内　容
【前期】 1～ 2 回　演出導入 3～ 4 回　5W2H とは 5～ 6 回　報連相について 7～ 8 回　現場におけるコミュニケーションについて 9～10 回　映画における演出方法 11～12 回　作品の権利について 13～14 回　シチュエーションごとの演出 15～16 回　前期まとめ 【後期】 1～ 2 回　前期の復習と後期の説明 3～ 4 回　CM の演出方法 5～ 6 回　PV,MV,VP などの違い 7～ 8 回　報道番組の演出方法 9～10 回　ドキュメンタリー番組の演出方法 11～12 回　バラエティ番組の演出方法 13～14 回　ドラマの演出方法 15～16 回　後期まとめ ＜授業外学修時間＞ 授業内容の理解を深めるため、毎回の授業後に配布資料やノート等を用いて復習を行う。 また、次回授業の範囲について教科書や参考資料を事前に読み、予習しておく。 必要に応じて課題やレポートに取り組み、関連する文献や資料を調査する。 担当教員は、授業外学修時間を確実に行わせるため、振り返りテスト、レポートなどを課すようする。

評価コード	3
評 価 方 法	・定期試験（100 点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点（出席および受講の状況）を 20 点の配点とする。成績の評定は、S（90～100 点）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、F（60 点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がＦの場合、追試験を受験する。 ・追試験（100 点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の６に 60 点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。 ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（１点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程　映像メディア科１年

科 目 名	音響照明論(A31)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必　修
担当教員	曽我部　進				実　務　経　験　内　容	
					なし	
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
	3	－	－	－		

科　目　の　ね　ら　い　・　到　達　目　標
映像制作において、映像と同様に重要な”音響””照明”の基礎知識を学ぶ。特に”音響””照明”が映像にどのように関与していくかを理解させる。

授業形態	講義	教　室	162 教室	補助教員	なし
機材や図面や配置図などをスクリーンに映しながら、解説していく。必要な時には、学生にプリントを配布し、課題を行って最後に解説を行う。学期の最後にノートチェックを行う。					

教 科 書 教　　材	舞台技術の共通基礎

授　業　計　画　・　内　容
【前期】 1～ 2 回　科目のガイダンス（音・光とは） 3～ 4 回　照明の仕事と基礎知識 5～ 6 回　「舞台照明」と「映像照明」の違い 7～ 8 回　基本の「３灯(点)照明」 9～10 回　音響の仕事と基礎知識 11～12 回　「録音部」の基礎知識 13～14 回　マイクロフォン（構造的分類、指向別分類、用途的分類、代表的なもの） 15～16 回　ケーブル、コネクター、その他小物（マイクスタンドなど） 【後期】 1～ 2 回　基本の「３灯(点)照明」 3～ 4 回　人物ライティング 5～ 6 回　物撮りライティング 7～ 8 回　照明機材の種類と基本　など 9～10 回　マイクロフォンによる収音（録音）方法 11～14 回　ミキサーの取り扱い 15～16 回　フォーリー ＜授業外学修時間＞ 授業内容の理解を深めるため、毎回の授業後に配布資料やノート等を用いて復習を行う。 また、次回授業の範囲について教科書や参考資料を事前に読み、予習しておく。 必要に応じて課題やレポートに取り組み、関連する文献や資料を調査する。 担当教員は、授業外学修時間を確実に行わせるため、振り返りテスト、レポートなどを課すようする。

評価コード	3
評 価 方 法	・定期試験（100 点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点（出席および受講の状況）を 20 点の配点とする。成績の評定は、S（90～100 点）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、F（60 点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がＦの場合、追試験を受験する。 ・追試験（100 点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の６に 60 点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。 ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（１点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程　映像メディア科１年

科 目 名	映像制作実習１(A27)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必　修
担当教員	森田　紗季				実　務　経　験　内　容	
					［森田］業界で制作を経験してきた。経験で培った知識・技術を活かし教育する。	
週 授 業 時 間 数	１年次	２年次	３年次	４年次		
	8	－	－	－		

科　目　の　ね　ら　い　・　到　達　目　標
映像制作を行うためにはどんな技術が必要で、どのように制作を進めていけばいいのか、実際に機材を扱いながら映像制作を実践的に学ぶ。映像/音声/照明の映像制作に必要な技術を包括的に学ぶ。

授業形態	実習	教　室	アートスタジオ NKC イベントホール	補助教員	なし
形態は実習形式で行う。機材の扱い方や技法を教える。また、グループワークを行い、必要に応じて適宜講義を行っていく。					

教 科 書 教　　材	貸与ノート型パソコン（授業内で適宜使用）

授　業　計　画　・　内　容
【前期】 1～ 6 回　ガイダンス(映像制作について説明) 7～20 回　映像制作におけるカメラ基礎技術① 21～30 回　映像制作におけるカメラ基礎技術② 31～40 回　映像制作におけるカメラ基礎技術③ 41～50 回　映像制作における照明基礎技術① 51～62 回　映像制作における音声基礎技術① 63～74 回　映像制作における音声基礎技術② 75～80 回　前期まとめ 【後期】 1～11 回　前期授業振り返り、後期授業についてガイダンス 12～22 回　映像制作におけるカメラ技術① 23～33 回　映像制作におけるカメラ技術② 34～44 回　映像制作における照明技術① 45～55 回　映像制作における照明技術② 56～66 回　映像制作における録音基礎技術① 67～77 回　映像制作における音響基礎技術① 78～80 回　後期まとめ ＜授業外学修時間＞ 授業内容の理解を深めるため、毎回の授業後に配布資料やノート等を用いて復習を行う。 また、次回授業の範囲について教科書や参考資料を事前に読み、予習しておく。 必要に応じて課題やレポートに取り組み、関連する文献や資料を調査する。 担当教員は、授業外学修時間を確実に行わせるため、振り返りテスト、レポートなどを課すようする。

評価コード	13

評 価 方 法	・100 点を満点とし、授業時間内における実技技能を 60 点とし、平常点（出席および受講の状況）を 40 点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程　映像メディア科１年

科 目 名	映像編集実習１(A29)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必　修
担当教員	吉廣、梅村				実　務　経　験　内　容	
					[吉廣]ブライダルの編集業務に携わってきた経験を活かし、編集のノウハウを実践的に教育する。 [梅村]放送業界で制作を経験してきた。培った編集の知識・技術を活かし講義する。	
週 授 業 時 間 数	１年次	２年次	３年次	４年次		
	9	－	－	－		

科　目　の　ね　ら　い　・　到　達　目　標
映像編集のフリーソフトを扱い映像を編集しながら、操作方法を学ぶ。 ノートパソコンを用いて、映像のテンプレート作成など行う。 また、授業内で映像を編集し、作品制作を行う。

授業形態	実習	教　室	162 教室	補助教員	なし

映像編集のフリーソフトを扱い映像を編集しながら、操作方法を学ぶ。
ノートパソコンを用いて、映像のテンプレート作成など行う。
また、授業内で映像を編集し、作品制作を行う。

教 科 書 教　　材	スマートフォン、ノートパソコンを使用し、ジャンルに合わせた編集のテクニックを基本から応用まで磨いていく。

授　業　計　画　・　内　容
【前期】 1～ 4 回　前期授業概要説明、映像編集について 5～10 回　映像編集ソフトを用いた動画編集技術の基本 11～20 回　動画の種類に応じた編集の基礎 21～30 回　動画効果を用いた編集基礎 31～34 回　BGM・SE を効果的に活用した編集基礎 35～38 回　動画編集実習① 39～42 回　動画編集実習② 43～48 回　前期まとめ 【後期】 1～ 4 回　後期授業概要説明、前期の復習 5～10 回　動画の種類に応じた編集の実践 11～20 回　動画効果を用いた編集実践 21～30 回　BGM・SE を効果的に活用した編集実践 31～34 回　エフェクト・音編集について 35～38 回　動画編集実習③ 39～42 回　動画編集実習④ 43～48 回　後期まとめ ＜授業外学修時間＞ 授業内容の理解を深めるため、毎回の授業後に配布資料やノート等を用いて復習を行う。 また、次回授業の範囲について教科書や参考資料を事前に読み、予習しておく。 必要に応じて課題やレポートに取り組み、関連する文献や資料を調査する。 担当教員は、授業外学修時間を確実に行わせるため、振り返りテスト、レポートなどを課すようする。

評価コード	13
評 価 方 法	・100 点を満点とし、授業時間内における実技技能を 60 点とし、平常点（出席および受講の状況）を 40 点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程　映像メディア科１年

科 目 名	コンピュータ演習１(A84)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必　修
担当教員	酒井　麻里				実　務　経　験　内　容	
					［酒井］企業等で経験して培ったコンピュータの知識・技術を活かし講義する。	
週 授 業 時 間 数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	6	－	－	－		

科　目　の　ね　ら　い　・　到　達　目　標
Word、Excel、PowerPoint の基本操作の実習し、今後の映像音響分野で使われる、企画書、プレゼン資料などが作成できるようなスキルを備えさせる。また、Photoshop、Illustrator など Adobe ソフトウェアも学ぶことで、より精度の高い資料を制作するスキルを習得し、プレゼンテーション能力も高める。

授業形態	演習	教　室	162 教室	補助教員	なし

前回の復習を最初に行い、次に進めていく。使用するソフトウェアの基本スキルを習得し、出された例題をこなすことで操作方法を深めていく。ある程度できるようになったら、課題を与え、提出させる。

教 科 書 教　　材	世界一わかりやすい Illustrator & Photoshop　技術評論社　ピクセルハウス　著 貸与ノート型パソコン（毎授業内で使用）

授　業　計　画　・　内　容
【前期】 1～ 2 回　コンピュータの環境設定、基本操作の確認 3～ 4 回　Word の基本操作 5～10 回　文章の作成と編集・表、画像の挿入(資料作成課題) 11～12 回　Excel の基本操作 13～18 回　数値の入力と編集・セルの編集・表計算・グラフ制作(資料作成課題) 19～22 回　プレゼンに関する基礎知識 23～24 回　PowerPoint の基本操作 25～30 回　文字の入力・表、画像、図形の挿入・アニメーションの制作(プレゼンスライド作成課題) 31～32 回　前期まとめ 【後期】 1～ 2 回　前期復習・プレゼンテーション準備 3～ 4 回　プレゼンテーションの実施① 5～10 回　Illustrator の基本操作 11～16 回　図形、線の制作、編集・文字の編集・イラスト、アイコンの制作・レイアウト基礎(資料作成課　　題) 17～18 回　Photoshop の基本操作 19～24 回　画像の編集、加工、補正、合成(画像編集課題) 25～30 回　Illustrator＆Photoshop の応用(広告作成) 31～32 回　プレゼンテーションの実施② ＜授業外学修時間＞ 授業内容の理解を深めるため、毎回の授業後に配布資料やノート等を用いて復習を行う。 また、次回授業の範囲について教科書や参考資料を事前に読み、予習しておく。 必要に応じて課題やレポートに取り組み、関連する文献や資料を調査する。 担当教員は、授業外学修時間を確実に行わせるため、振り返りテスト、レポートなどを課すようする。

評価コード	13

評 価 方 法	・100 点を満点とし、授業時間内における実技技能を 60 点とし、平常点（出席および受講の状況）を 40 点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。